

2025 年度

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻  
博士後期課程（3年制）

一般・社会人・留学生  
学 生 募 集 要 項



大阪医科薬科大学

# 大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻博士後期（3年制）課程

## 大学の理念

建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

## 大学の目的

大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

1. 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材
2. 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
3. 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

## 大学院の目的

医学、薬学及び看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与することを目的とする。

## 博士後期課程の目的

生命科学や高度先端医療に密接に関連する薬科学研究分野において、創薬研究を通じて学問の体系的な発展及び継承を担う研究者・教育者となることができる人材を養成することを目的とする。

## アドミッション・ポリシー

博士前期（修士）課程を基礎とする博士後期課程であり、大阪医科薬科大学の理念を理解し、本大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程の人材養成の目的に応えられ、柔軟な思考力と豊かな創造性を有する次のような学生を求めています。

- ・生命科学、創薬科学、高度先端医療分野に密接に関連する薬科学研究分野において、高度な専門的知識、研究技能及び倫理観を修得し、創薬研究の発展を担う研究者・技術者として活躍することに強い意欲を持つ者。

なお、外国において修士の学位を授与された者も募集対象とします。

また、入学者は、「外国語（英語）」「面接」「発表・口頭試問」により評価・判定の上、選抜します。

## カリキュラム・ポリシー

薬科学専攻博士後期課程（博士課程）において、学生は3つの研究領域（分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域）のいずれかに所属します。研究・教育指導は、所属研究室の指導教員を中心に行うが、これに加えて当該研究領域の教員並びに領域外の教員とも連携し、学生に対して複眼的な視点からの研究・教育指導が行える体制としており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。

1. 専門分野に関連した他の研究領域の知識と技能を取込み、オリジナリティーの高い独自の専門分野を開発・発展させることのできる柔軟性と応用力、倫理観を備えた資質を涵養することを目的とした講義科目を配置します。
2. 問題解決能力や課題探究能力を養成するため、特別演習、特別研究演習、及び特別研究を配置します。

上記のように編成した教育課程では各科目の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育、LMS（Learning Management System）などを活用した学修を実践します。

## ディプロマ・ポリシー

薬学研究科薬科学専攻博士後期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士（薬科学）」とし、審査にあたり、

- ・生命科学の応用として展開される創薬科学や関連する研究領域において、新しい視点と独自の発想から課題を的確に把握し、それを解決できる高度な専門的知識と技能、倫理観を持ち、さらに指導力とリーダーシップを発揮して薬科学領域の研究に貢献できる能力を身に付けていること。

を学位授与の基準とします。

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻博士後期課程（3年制）  
学生募集要項

1. 募集人員 2名

2. 募集専攻領域

専攻	専攻領域
薬科学専攻	分子構造・機能解析学 創薬化学 生命・環境科学

大学院設置基準第14条特例により、社会人学生には時間割上の配慮<sup>※1</sup>を行います。また長期履修に関する規程<sup>※2</sup>を設けています。

※1 夜間その他特定の時間帯又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる（本大学院学則）。平日夜間、土曜日に授業を行うことがあります。

※2 職業を有する方、育児又は介護等の事情を有する方は、計画的に1年又は2年大学院での在学年限を延長することができます。延長された期間の学費は免除されます。

3. 出願資格

- 1) 修士の学位を有する者、又は2025年3月修了見込みの者
- 2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- 3) 文部科学大臣の指定した者
- 4) その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

注)外国人留学生（日本国籍を有しない者のうち日本国の永住許可を取得していない者）のうち私費外国人留学生は、上記の出願資格を有し、入学後に「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の在留資格を取得又は更新できることを条件とします。

4. 出願期間及び方法

- 1) 期間 2024年8月23日（金）～8月30日（金）
- 2) 薬学学務部教務課へ持参する場合：受付時間 平日午前9時～午後4時30分
- 3) 郵送の場合：簡易書留・速達郵便として、薬学学務部教務課に送付してください。出願期間中の消印のあるもののみ受け付けます。また、封筒の表に「博士後期課程願書在中」と朱書してください。

5. 出願方法

入学志願者は、下記の書類に入学検定料 20,000 円を添え、出願期間中に本学に提出してください（本学卒業生は免除）。郵便で提出する場合、入学検定料は郵便為替証書（手数料志願者負担）を同封してください。また銀行振込の場合も手数料本人負担となります。

1) 入学願書

本学所定の用紙を用い、出願前3か月以内に撮影した写真を1枚貼付したもの

2) 修士課程修了証明書又は修了見込証明書、同成績証明書 <sup>※3</sup>

出身大学において作成の上、厳封したもの

3) 修士論文指導教員の推薦書 <sup>※3</sup>

4) 修士論文の写し1部 <sup>※3</sup>

5) 修士論文要旨

400 字詰原稿用紙 5 枚、又は英語 500 語以内

6) 出願資格 1) に該当する者で、修士の学位取得後、社会人として企業や病院等に勤務し、新たな研究を行っている場合は、上記の 3) ~ 5) に替え該当する研究要旨 (400 字詰原稿用紙 5 枚、又は英語 500 語以内) と所属長の推薦書

7) 返信用封筒 (定形封筒・長形 3 号)

出願書類を郵送した場合のみ必要。受験票送付用として、宛名を明記し、344 円切手を貼付したもの

8) 卒業研究、研究概要プレゼンテーション用データ

Microsoft Powerpoint ファイル等 (USBメモリ等に保存) は、試験当日午前 10 時までに薬学学務部教務課へ提出してください。

9) 事前相談

入学を希望する研究室の責任者 (指導教員) と事前に相談し了承を得てください。

10) 受験許可書

社会人の場合は、所属長名で受験すること及び在職のまま修学することを承諾することを記した書面 (様式任意) を提出してください。

※3 他大学出身者のみ提出

外国人留学生は、1) から 9) までの項目に加え、以下のものを提出してください。

11) 在留資格認定証明書又は住民票 (在留資格及び在留期間が記載されたもの)、なお日本国外からの出願の場合はパスポートの写し

12) 身元保証書<sup>\*4</sup> (保証人は日本在住の方とします)

13) 健康診断書

14) 推薦書

15) 履歴書

※4 私費留学生のみ提出

6. 選考方法

学力試験<sup>\*5</sup>、面接及び提出書類により合格者を決定します。

※5 国費留学生の場合は学力試験を免除することがあります。

7. 学力試験

1) 期日: 2024 年 9 月 18 日 (水)

2) 場所: 大阪医科薬科大学 阿武山キャンパス (高槻市奈佐原4-20-1)

3) 時間割

時間割	試験科目
11:00~12:00	外国語 (英語) <sup>*6</sup> : 共通領域
13:00~	発表・口頭試問 : 卒業研究プレゼンテーション用データに基づいて発表 <sup>*6</sup>

発表・口頭試問の終了後に面接を実施します。時間割は変更することがあります。

※6 ①辞書 (電子、専門辞書を除く) の持ち込みは可能です。

②本学修了生は、免除します。

③外国人留学生が、発表 (プレゼンテーション) を英語で行う場合は、外国語科目を免除することがあります。

## 8. 合格者発表

2024年10月7日(月)大阪医科薬科大学阿武山キャンパスにおいて発表し、また合格者には書面で通知します。

## 9. 入学手続

入学手続に関する詳細は、合格者に別途通知します。この通知に記載した手続を行った者に対して、入学を許可します。

入学手続締切日：1次(入学金、書類) 2024年12月13日(金)

2次(前期授業料) 2025年3月10日(月)

## 10. 納付金

1) 入学金 100,000円(本学卒業生・修了生は免除)

2) 授業料 500,000円(年額)

その他、代理徴収金(薬学部PA会費)として18,000円(年額)を納入してください。

## 11. リサーチ・アシスタント(R.A)制度

本課程在学学生は、希望により、リサーチ・アシスタント(R.A)に委嘱され、報酬を得ることができます。ただし長期履修適用者は除きます。

## 12. その他

1) 一度提出した書類及び納付金は返却しません。

2) 入学に際し虚偽の記載などの事実があった場合、入学許可を取り消すことがあります。

3) 受験や修学にあたって特別な措置を希望する者は、事前に薬学学務部教務課にお問い合わせください。

4) 志願者は必ず出願前に、志望する研究室の担当指導教員に研究内容等について相談してください。

〈入試に関する問い合わせ先〉

大阪医科薬科大学 薬学学務部教務課

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号

電話 (072) 690-1000 (代表)

(072) 690-1013 (直通)

ホームページアドレス

<https://www.ompu.ac.jp>

募集研究室一覧

領域	(研究室) 指導教員	研究内容
分子構造・機能解析学領域	(生化学研究室) ★ 教授 福永 理己郎  (薬品物理化学研究室) 准教授 友尾 幸司 ★ 准教授 尹 康子  ● (生体機能解析学研究室) 教授 奥田 洋明	<ul style="list-style-type: none"> <li>リン脂質加水分解酵素の酵素機能の分子論</li> <li>組換えピブリオ菌イソコリスミ酸合成酵素とイソコリスミ酸ピルビン酸リアーゼの大腸菌による発現と精製</li> <li>タンパク質生成開始因子の構造機能解析</li> <li>アルツハイマー型認知症関連タンパク質tauの自己重合機構の解明と重合阻害分子の開発</li> <li>放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明</li> <li>病原微生物における鉄輸送機構の解明と新規抗菌薬の開発</li> <li>慢性痛の発症機序の解明と新規治療法の開発</li> <li>植物由来生理活性物質による抗炎症機序の解明</li> <li>グリア細胞の機能的多様性の解明</li> <li>細胞増殖阻害薬の作用メカニズムの解明と細胞の増殖・分化・死の機構解明</li> </ul>
創薬化学領域	(有機薬化学研究室) ★ 教授 宇佐美 吉英  (生薬科学研究室) 教授 谷口 雅彦  (分子構造化学研究室) 准教授 浅野 晶子  ● (機能分子創製化学研究室) 准教授 和田 俊一  ● (医薬分子化学研究室) 教授 平野 智也 准教授 山田 剛司	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルバシュガー型天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究</li> <li>新規複素環化合物の合成研究</li> <li>Vanin-1 阻害剤のデザインと合成</li> <li>各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究</li> <li>サプリメントの有用性に関する研究</li> <li>エピゲノム及びタンパク質間相互作用を制御する生薬成分の探索</li> <li>ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究</li> <li>非天然型アミノ酸を用いた膜透過性ペプチドの開発</li> <li>機能性ペプチドの構造解析とデザイン</li> <li>細胞内移送能を有するキャリアペプチドの開発</li> <li>細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用</li> <li>がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発</li> <li>医療への応用を志向した光機能分子の開発</li> <li>エピジェネティクス、エピトランスクリプトームを制御、解析する分子の開発</li> <li>海洋生物由来菌類の産生する代謝物からの抗腫瘍性物質のシーズ探索研究</li> <li>創薬を目的とした天然物の生理活性及び活性機構に関する研究</li> <li>生体防御と抗老化作用を有する化合物の創薬研究</li> </ul>
生命・環境科学領域	(病態生化学研究室) 教授 藤森 功  ● (衛生化学研究室) 教授 奥平 桂一郎 准教授 佐久間 覚  ● (感染防御学研究室) 教授 駒野 淳 准教授 宮本 勝城  ● (病態分子薬理学研究室) 教授 大喜多 守 准教授 田和 正志	<ul style="list-style-type: none"> <li>脂質メディエーターとそれらの代謝物の機能と調節機構に関する研究</li> <li>脂質メディエーターによる疾患制御の分子機構の解明</li> <li>肥満制御の分子機構と新規抗肥満薬開発に関する研究</li> <li>機能性化合物による疾患制御に関する研究</li> <li>動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究</li> <li>がん治療を指向した製剤開発に関する研究</li> <li>核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究</li> <li>酸化ストレスが関与する病態発症機序と制御因子に関する研究</li> <li>脳血管内皮細胞のtight junction の分子機構と制御因子に関する研究</li> <li>医薬品による環境汚染の動態と除染技術の開発</li> <li>感染症に対する新たな治療戦略の開発研究</li> <li>宿主-病原体相互作用の解析を通じた病原性発揮メカニズムの解明</li> <li>エンドセリン及び一酸化窒素の病態生理学的役割に関する研究</li> <li>急性腎障害や慢性腎臓病に対する薬効評価及びその作用機序に関する研究</li> <li>可溶性グアニル酸シクラーゼを標的とした創薬に関する研究</li> <li>各種循環器疾患に対する新規治療薬の開発研究</li> <li>各種機能性食品の薬理学的研究</li> </ul>

領域	(研究室) 指導教員	研究内容
生命・環境科学領域	<p>前頁から続く</p> <p>● (薬品作用解析学研究室) ★ 教授 大野 行弘 准教授 清水 佐紀</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セロトニン神経系の機能解析および創薬応用研究</li> <li>・ ニューロン-グリア相互作用の解析研究</li> <li>・ 中枢神経作用薬の薬理研究</li> </ul>
	<p>● (薬物治療学 I 研究室) 教授 加藤 隆児 准教授 幸田 祐佳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重篤副作用 (肝障害、肺障害、腎障害、心筋障害等) 発症機構の解明と予測マーカーの探索</li> <li>・ 酸化ストレス関連疾患の病態解明と予防法に関する研究</li> <li>・ 在宅医療における薬物血中濃度モニタリング (TDM) の臨床的有用性に関する研究</li> </ul>
	<p>● (薬物治療学 II 研究室) 教授 福森 亮雄</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の病態と医療応用</li> <li>・ 自己免疫性脳炎の病態と医療応用</li> <li>・ 非天然アミノ酸の遺伝的取り込みを用いる孤児受容体リガンドの同定</li> <li>・ CRISPR/Cas9 を用いる遺伝子改変生物の作成とその病態解析への応用</li> </ul>
	<p>● (生体分析学研究室) 教授 天満 敬</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PET・SPECT 画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究</li> <li>・ MRI・光イメージングのための分子プローブ開発に関する研究</li> <li>・ がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究</li> <li>・ 中性子捕捉療法によるがんの治療のための薬剤開発研究</li> <li>・ 病態モデル動物を用いた各種疾患の診断・治療法開発に関する研究</li> </ul>
	<p>● (薬剤学研究室) 教授 永井 純也 准教授 本橋 秀之</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾患時における組織環境変化に伴う薬物動態変動とその分子機構の解明に関する研究</li> <li>・ 薬物動態の精密制御による医薬品の有効性と安全性の向上と新規投与方法に関する研究</li> <li>・ 脂肪幹細胞が有する組織細胞保護作用の要因解明と細胞医薬品への応用</li> <li>・ 抗がん剤の体内動態に関わる生体因子の解明と抗腫瘍効果および毒性発現における役割に関する研究</li> </ul>
	<p>● (製剤設計学研究室) 教授 戸塚 裕一</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難水溶性医薬品の新規可溶化技術に関する研究</li> <li>・ 経肺投与・吸入用の微粒子調製に関する研究</li> <li>・ 自己乳化型製剤調製に関する研究</li> </ul>
<p>● (臨床漢方薬学研究室) 教授 芝野 真喜雄</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滋陰生薬の老化細胞に対する抗炎症作用に関する研究</li> <li>・ 漢方生薬の修治・炮製の科学的解明に関する研究</li> <li>・ 漢方薬の副作用防止に関する研究</li> </ul>	

志願者は、出願前に志望する研究室の責任者に研究内容等について相談しておくこと。

●を付した研究室は、薬学専攻との兼担研究室として研究指導を受けることができる。

★を付した教員は、修了までに定年又は退職となる。